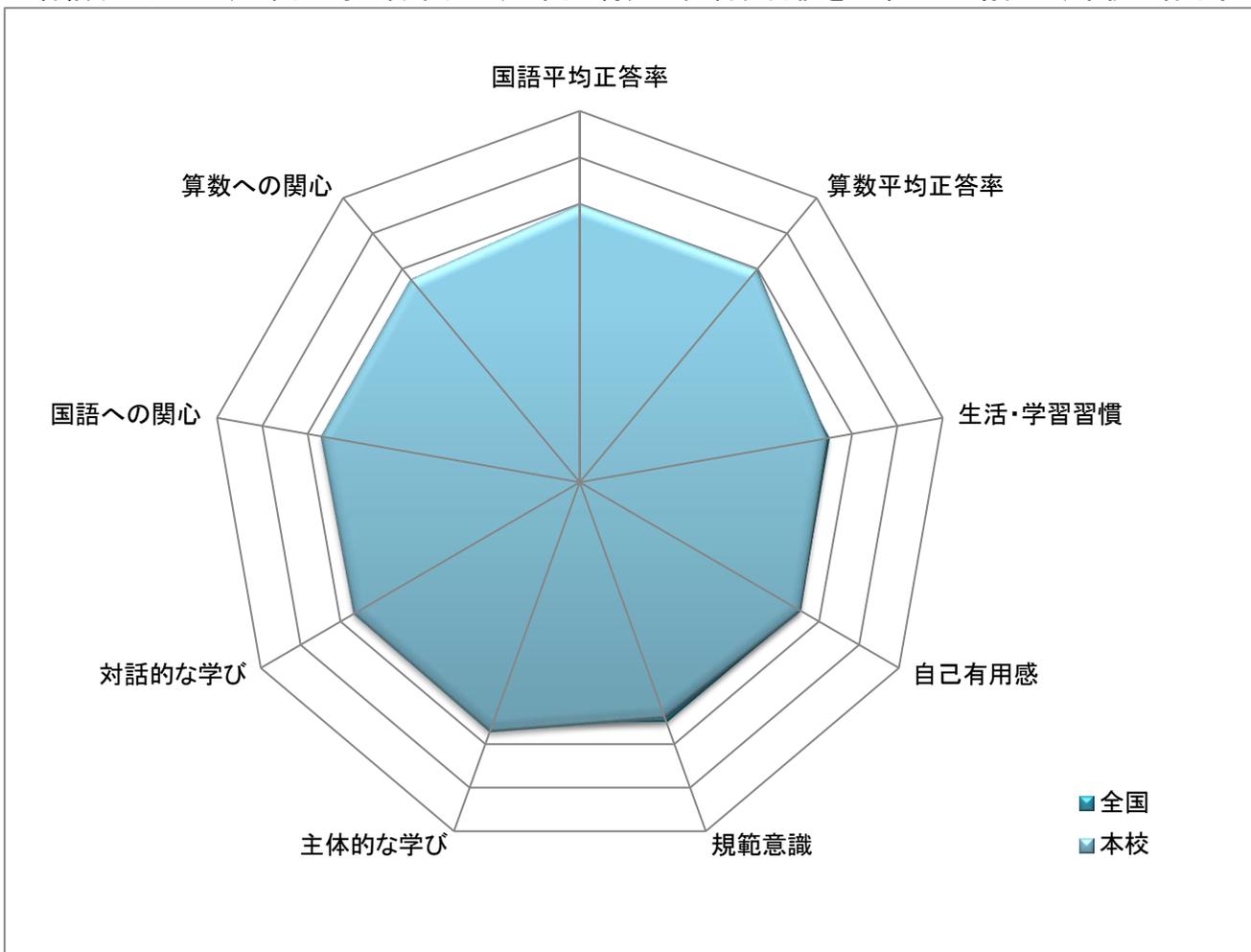


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- 国語
 - 基本的な知識や文章からの読み取り、適切な話し方の理解などはどれも全国・東京都平均を上回っており、問題の形式にかかわらず答えることができている。
 - 目的や意図に応じて、相手に分かりやすく書いたり表現したりすることが苦手である。
- 算数
 - すべての領域において全国・東京都平均を上回っており、問題の形式にかかわらず概ね答えることができている。
 - 加減乗除に注意して計算するなど、計算の意味を考えて問題を解くことが十分ではない。

《授業改善のポイント》

- ・国語では、書く活動を多く取り入れ、作文の目的や意図に応じて文章を構成したり、覚えた漢字を使って正しい文法で書いたりする活動を多く取り入れていく。
- ・算数では基礎的な計算問題でも式の意味を考えながら立式したり、計算したりするように働きかける。
- ・各教科において今後も知識、技能の定着を図っていく。
- ・規範意識の向上を図るために学校の約束やマナー、友達関係について道徳の時間や学級活動などで取り上げて指導する機会を設ける。

《チャートの特徴》

- 学習については、正答率や関心などすべての項目において全国平均を上回り、学習に対する児童の意識の高さを見ることができる。
- その一方で、生活・学習習慣は全国平均を下回っている。特に、起床・就寝時刻がバラバラで生活リズムが安定していないことが分かった。また、自己有用感が高い児童が多いが、規範意識の点では、「学校のルールを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目において全国平均を下回った。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・学校や家庭、地域のルールを守れるように、学校と家庭が同じ視点で指導できるように共通理解を図る。
- ・ふたばっこカードを活用し、早寝早起きなど、基本的な生活習慣を家庭と学校が連携して身に付けられるように促す。
- ・ほめほめカードを活用し、子どもの良さを価値づけ自尊感情を高めていく。